

都道府県番号	17
都道府県名	石川県

学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
石川県学力向上推進地域	255校 (21校)	103校 (13校)	358校 (34校)

学力向上推進協議会（地区別協議会）の設置数及び域内の学校数

地区別協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
小松地区協議会 (小松市, 加賀市, 山中町, 根上町, 寺井町, 辰口町, 川北町)	57校 (3校)	20校 (3校)	77校 (6校)
金沢市地区協議会 (金沢市)	58校 (4校)	24校 (3校)	82校 (7校)
金沢地区協議会 (松任市, かほく市, 美川町, 鶴来町, 野々市町, 河内村, 吉野谷村, 鳥越村, 尾口村, 白峰村, 津幡町, 内灘町)	46校 (3校)	20校 (3校)	66校 (6校)
中能登地区協議会 (七尾市, 羽咋市, 富来町, 志雄町, 志賀町, 押水町, 田鶴浜町, 鳥屋町, 中島町, 鹿島町, 能登島町, 鹿西町)	51校 (6校)	19校 (2校)	70校 (8校)
奥能登地区協議会 (輪島市, 珠洲市, 穴水町, 門前町, 能都町, 柳田村, 内浦町)	43校 (5校)	20校 (2校)	63校 (7校)

都道府県教育委員会としての支援策

- (1) 地区別協議会に対して
 県協議会の構成員は、地区別協議会の代表者5名、担当指導主事5名、学識経験者1名、PTA関係者2名の13名、年3回開催とする。
 協議内容としては、
 ・フロンティアスクールにおける研究内容や地区別協議会の運営の方法を検討するとともに、研究の成果の普及の方策についての具体的な方向性を示す。
 ・各フロンティアスクールの実践内容をまとめ、次年度地区別協議会を実施する際の資料とする。
- (2) 域内の各小・中学校に対して（含：学力向上フロンティアスクール）に対して
 5月下旬までに、新規のフロンティアスクールを中心に学校訪問を実施し、校長及び担当者と懇談し、学校の実態に応じた特色ある取組について助言を行う。また、各教育事務所ごとに担当指導主事により、随時学校訪問を行い、各校の実態、取組に応じたきめ細かな指導助言を行っている。
 地区別協議会は県内5地区において、年3回程度実施する。フロンティアティーチャー等の研究代表及び保護者代表、域内の研究校の代表で構成し、各フロンティアスクールにおける研究授業を中心に、習熟の程度に応じた指導の充実を中心に協議し、指導助言を行っている。
- (3) 実践研究の成果の普及の方策の構築
 「きめ細かな指導推進協議会」(県)を県内5地区に組織し、年3回程度実施している。フロンティアスクールも含めた少人数等の加配校全校の代表者を集め、研究授業をもとに、少人数、チームティーチングにおける効果的な指導の在り方について研究協議を行っている。

学力把握のための都道府県としての取組について

- (1) 全県的な学力調査を実施（年1回。小6，中3対象）。県全体の基礎学力の定着度を把握するとともに、報告書を全学校に配付し、県との比較により、指導法の工夫改善・教育課程の見直しに生かしている。平成16年度より、小4にも拡大して実施を予定している。
- (2) 年間2回（7月，12月）少人数加配全校に対し、児童生徒，教員を対象にアンケート調査を実施。結果をもとに指導法や指導体制の改善について指導助言を行っている。

学力向上推進協議会について

- (1) 開催時期及び参加対象

第1回 平成15年5月19日（月）
 大学助教授1名，PTA関係者2名，地区別協議会代表教員（校長）5名，
 地区別担当指導主事5名 計13名及び事務局

第2回 平成15年12月12日（金）
 大学助教授1名，PTA関係者2名，地区別協議会代表教員（校長）5名，
 地区別担当指導主事5名 計13名及び事務局

第3回 平成16年2月24日（火）
 大学助教授1名，PTA関係者2名，地区別協議会代表教員（校長）5名，
 地区別担当指導主事5名 計13名及び事務局

(2) 協議会の主な内容等

第1回	「テーマ 成果の普及」
主な内容	・協議会の年間計画（県，5地区） ・研究の進め方について ・研究成果の普及の方法について
第2回	「テーマ 地区別協議会からの課題」
主な内容	・各地区別協議会から ・成果の各地域への普及・啓発の状況について ・研究発表会より「自ら問題を解決できる子をめざして」
第3回	「テーマ 最終年度に向けて」
主な内容	・本年度の地区別協議会及びフロンティアスクールにおける研究の成果と課題について ・来年度の具体的な取組について

実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容
(1) 県基礎学力調査の活用
(2) 教員・児童生徒へのアンケートの実施
(3) 積極的な授業公開
進捗状況（成果及び課題等）
(1) 平成14年度基礎学力調査のデータ及び15年度のデータを分析・比較することにより，フロンティアスクールを含む県内の子どもたちの基礎学力の定着度及び指導方法等の評価を行った。 その結果を，報告書にまとめて全小中学校に配布するとともに結果の概要をまとめたリーフレットを全教員に配布した。
(2) 少人数のアンケート結果と前年度の結果を比較し，教員や児童生徒の情意面での分析を行った。アンケート結果に基づいて，各地区協議会で，課題として挙げられたことの改善のための方策の検討を行った。
(3) 積極的に授業公開が行われ，平成15年度は14校のフロンティアスクールで公開発表が開催された。最終年度に向けての工夫改善のために，保護者や参加者の意見も反映するように，参観後のアンケート等も実施している。

地区別協議会における特色ある取組

小松地区，金沢地区，金沢市地区，中能登地区，奥能登地区からの報告書による。

都道府県番号	17
地区協議会名	小松地区協議会

地区協議会の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
小松地区協議会	57校 (3校)	20校 (3校)	77校 (6校)

地区協議会としての支援策

<p>(1) 域内の各小・中学校に対して(含:学力向上フロンティアスクール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問, 校長会等にて事業の趣旨を啓発した。 ・管内きめ細かな指導推進協議会担当者を通じて事業の趣旨を啓発した。 ・フロンティアスクールには, 研究推進の進捗状況を常に把握・連携しながら適切に指導・助言した。 <p>(2) 実践研究の成果の普及の方策の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『平成14年度実践研究の概要』を作成し, 管内の全小・中学校に配布した。 ・管内のきめ細かな指導推進協議会を普及の場として連動した。 <ul style="list-style-type: none"> 第1回(4月): フロンティアスクールの実践紹介。 第2回(6月): フロンティアスクールを含む3校で少人数指導授業公開。 第3回(8月): 講演会を以てフロンティア事業の趣旨確認。 第4回(10/11月): 研究発表会への参加。 <ul style="list-style-type: none"> 芦城小10/23 宮竹小10/30 芦城中11/27
--

学力把握のための地区協議会としての取組について

<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に, 管内の少人数指導実施校の指導者全員を対象に指導の手応えや, 児童生徒の状況等についてアンケートを実施し, 昨年度と比較・検討する予定。
--

地区協議会について

(1) 開催時期・場所及び参加対象・人数

第1回	平成15年4月18日	<小松教育事務所>	13名
		指導主事, 担当教員, 保護者	
第2回	平成15年8月29日	<寺井町福祉会館>	13名(+約250名)
		指導主事, 担当教員, 保護者, 管内の一般教職員	
第3回	平成16年2月10日	<小松教育事務所>	13名
		指導主事, 担当教員, 保護者	

(2) 地区協議会の主な内容等

第1回	4月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の趣旨確認 ・小松地区協議会の趣旨確認 ・14年度の経過報告, 質疑応答 ・平成14年度の成果と課題報告 ・今年度の推進計画等の協議
第2回	8月29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・フロンティア事業の趣旨理解・確認・啓発 ・講演会 講師 上智大学教授 加藤 幸次 演題「～確かな学力の向上をめざして～個に応ずる学習指導と評価」
第3回	2月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度管内フロンティアスクールの取り組み紹介(リーフレット)および少人数指導実践事例集(冊子)の作成について ・今年度の総括と来年度の展望

「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

<p>事業評価の実施方法・内容 進捗状況(成果及び課題等)</p> <p>成 果</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地区協議会を幅広い立場の委員で組織できたこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の推進を図っていく上でも, また来年度以降に積み上げていく上でも意義が大きい。また, 県指定「個に応じた学習力向上のための実践研究校」2校も連携校という位置づけで, 地区協議会に参加していることでお互いに意見交換するなど相乗効果を上げることができた。 * 「管内きめ細かな指導推進協議会」との連動ができたこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・従来からの事務所主催「管内きめ細かな指導推進協議会」(年4回)を連動することによって, フロンティアスクールの実践充実の場となり, 管内の推進に繋がった。 * 「小松地区協議会推進計画予定表(H14~16)」を基に推進できたこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の見通しととらえ方を共有化することができたと同時に, 各校それぞれが今後の研究を推進していく上で役立った。 * 平成15年度管内フロンティアスクールの取り組み紹介(リーフレット)および少人数指導実践事例集(冊子)を作成し, 管内全小中学校に配布準備。 <ul style="list-style-type: none"> ・各フロンティアスクールの研究特色をリーフレットに紹介し, 少人数指導の実践事例を中心として冊子を作成する。さらに, フロンティアスクールの研究のまとめ(概要)も合わせ, 管内のすべての小・中学校に配布して実践成果を普及する。(新年度4月の予定) <p>課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> * 本事業が『学力の向上』に, 有効に機能しているか。 * 来年度の『研究発表』(発信)の在り方をどう工夫するのか。 * きめ細かな指導推進協議会を連動することによって, 算数・数学の少人数指導を中心に実践力の向上を図っているが, その視点を管内すべての学校にいかに関及させていくかと言うことと, すべての教科に広げていくこと。この意味で, 縦(小中)・横(小学校間・中学校間)の『連携ネット』をいかに広げるのか。

地区協議会における特色ある取組

研究成果の普及の方策

- ・『平成14年度実践研究の概要』(冊子)を作成し、管内の全小・中学校に配布した。
- ・管内のきめ細かな指導推進協議会を普及の場として連動した。
 - 第1回(4月): フロンティアスクールの実践紹介。
 - 第2回(6月): フロンティアスクールを含む3校で少人数指導授業公開。
 - 第3回(8月): 講演会を以てフロンティア事業の趣旨確認。
 - 第4回(10/11月): 研究発表会への参加。
芦城小10/23 宮竹小10/30 芦城中11/27

地区内の学校に対する支援策

- ・各フロンティアスクールの研究特色をリーフレットに紹介し、少人数指導の実践事例を中心として冊子を作成する。さらに、フロンティアスクールの研究のまとめ(概要)も合わせ、管内のすべての小・中学校に配布して実践成果を普及する。(新年度4月の予定)

都道府県番号	17
地区協議会	奥能登地区学力向上推進協議会

地区協議会の設置数及び域内の学校数

地区協議会	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
奥能登地区協議会 (輪島市, 珠洲市, 穴水町, 門前町, 内浦町, 能都町, 柳田村)	43 + 1 分校 (5 校)	20 + 1 分校 (2 校)	63 + 2 分校 (7 校)

地区協議会としての支援策

<p>(1) 域内の各小・中学校に対して(含: フロンティアスクール)に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨, 内容等について各小中学校の理解を図る。 ・各フロンティアスクールにおける実践に対する助言。 ・各フロンティアスクールにおける実践研究の成果を地区内の学校等に普及するための具体的方策について検討。 <p>(2) 実践研究の成果の普及の方策の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各フロンティアスクールにおける研究発表会や公開授業等。 ・各フロンティアスクールの取組の概要をホームページにて公開。 ・各フロンティアスクールの取組の概要及び実践事例を冊子にまとめ, 地区内の小中学校に配付。
--

学力把握のための地区協議会としての取組について

<p>少人数加配校, T.T.加配校対象に「学習に対する意識調査」を実施。 県が実施するの基礎学力調査の分析。</p>

地区協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

第1回	期日	平成15年6月24日(火)
	会場	柳田村立柳田小学校
	参加者	地区協議会委員 19名(教員, 保護者), 指導主事 11名 (他 きめ細かな指導推進協議会及び柳田小学校中間発表参加者 60名)
第2回	期日	平成15年11月19日(水)
	会場	珠洲市立緑丘中学校
	参加者	地区協議会委員 18名(教員, 保護者), 指導主事 9名 (他 きめ細かな指導推進協議会及び柳田小学校中間発表参加者 105名)
第3回	期日	平成16年2月18日(水)
	会場	奥能登行政センター会議室
	参加者	地区協議会委員 19名(教員, 保護者), 指導主事 5名

(2) 地区協議会の主な内容等

第 1 回 (1) 公開授業参観 (1 年国語 (T.T.), 4 , 6 年算数 (習熟度別少人数指導))

(2) 協議会

事業説明 ・ 趣旨 , 実施要項 , 研究内容等説明

協 議 ・ 各フロンティアスクールの取組の概要について

・ 参観授業について

・ 研究成果の普及の方法について

第 2 回 (1) 公開授業参観 (3 年数学 (習熟度別少人数指導) , 2 年英語 (習熟度別少人数指導) ,
1 年国語 , 2 年理科 , 3 年社会 , 3 年体育)

(2) 研究協議会 (授業整理会)

(3) 講 演 会 演題 「 確かなる学力をつけるために 」

講師 埼玉大学教育学部助教授 庄 司 康 生 氏

第 3 回 (1) 協議会

報告及び協議

- ・ 各フロンティアスクールから研究の成果と課題 , 普及の方法等について報告
- ・ きめ細かな指導のアンケートについて
- ・ 普及の方法について
- ・ 来年度の方針について

「 事業評価の実施方法・内容 」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容

- ・ 簡単な事業評価シート (自己評価票) を作成し , 事務局 (奥能登教育事務所指導主事) で自己評価を実施する。
- ・ 評価結果を分析し , 改善を目指す。

進捗状況 (成果及び課題)

- ・ 取組状況を地区協議会で確認しあいながら , 「 確かな学力 」 の向上に向け , 各フロンティアスクールは意欲的 , 積極的に研究実践に取り組んでいる。
- ・ 研究成果の評価方法について更に検討する必要がある。
- ・ 各フロンティアスクール間のより一層の連携が求められる。
- ・ 各フロンティアスクール以外の学校への普及の方策について更に検討する必要がある。

地区協議会における特色ある取組

地区内の学校に対する支援策

- ・ 各フロンティアスクールの取組の概要及び実践事例を冊子にまとめ , 地区内の小中学校に配布する。

- ・「確かな学力をつけるために」という演題で講演会を実施する。

(講師 埼玉大学教育学部助教授 庄司康生氏)

- ・少人数授業実施校，チームティーチング実施校等を対象に「きめ細かな指導推進協議会」を開催し，きめ細かな指導推進のための校内体制，実施計画，指導方法，評価等について情報交換や研究授業をもとにした協議を行う。

研究成果の普及の方策

- ・各フロンティアスクールの取組の概要をホームページにて公開している。(奥能登地区協議会)
- ・各フロンティアスクールの取組の概要及び実践事例を冊子にまとめ，地区内の小中学校に配付する。
- ・「きめ細かな指導推進協議会」の会場校として授業公開及び授業整理会をもち研究成果の普及を図る。

その他特色があると思われる取組

- ・地区内のフロンティアスクールとフロンティアハイスクールが連携し，授業を公開し合い，授業研究を行うなど，中高一貫して地域内の児童生徒の学力向上に資するための連携した取組が見られる。

期限付き数値目標(学校版マニフェスト)を作成し，保護者に公開した研究実践。

都道府県番号	17
地区協議会名	金沢市地区協議会

地区協議会の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
金沢市地区協議会	58校 (4校)	24校 (3校)	82校 (7校)

地区協議会としての支援策

<p>(1) 域内の各小・中学校に対して(含：学力向上フロンティアスクール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の学力向上策を策定し、計画的に実践、評価している取り組みについて、全校の教務主任が出席する教務主任連絡協議会で紹介 ・フロンティアティーチャーを中心とした習熟度に応じた指導法の工夫について、金沢市きめ細かな指導推進協議会で研究授業の実施、実践事例の紹介 ・学力向上に向けての学校、家庭、行政の役割を明確にした報告書を作成し、全校が集まる校長会、教頭会、教務主任連絡協議会などで配付し説明(予定) <p>(2) 実践研究の成果の普及の方策の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会に多くの教員が参加できるように、年2回(6月、11月)全市の「研究公開の日」を年度当初に設定 ・学力向上フロンティアスクールや金沢市学力向上モデル校の取り組みの概要を金沢市教育プラザ富樫のホームページに掲載し、「edねっと」で市内全校に配信(予定)

学力把握のための地区協議会としての取組について

<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の状況把握に生かせる数値データ例(評価指標例)を作成し、校長会、教頭会、教務主任連絡協議会で紹介 2 教育課程実施状況調査の項目に、教科の実施時数といった「量的」な面だけでなく、評定の結果や教科等の課題といった「質的」な面を金沢市独自に追加し調査 3 金沢市独自に、抽出校による「学力テスト」を実施

地区協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

第1回	平成15年6月24日	金沢市西町教育研修館
	・学力向上フロンティアスクール7校の担当者	7名
	・金沢市学力向上モデル校6校の担当者	6名
	・金沢市教育委員会学校指導課 指導主事	4名
第2回	平成15年12月15日	金沢市西町教育研修館
	・学力向上フロンティアスクール7校の担当者	7名
	・金沢市学力向上モデル校6校の担当者	6名
	・金沢市教育委員会学校指導課 指導主事	3名

(2) 地区協議会の主な内容等

第1回 (趣 旨)

- ・学力向上フロンティアスクール、金沢市学力向上モデル校の各校の学力向上の取り組みについて情報交換し、取り組みを進めるにあたり留意すべきことについて共通理解を図る。

(主な協議内容)

- 1 「金沢市学力向上モデル校実施要項」、「フロンティアスクールにおける実践研究の進め方について」に共通に見られる研究内容や研究方法の確認
- 2 各校の学力向上の取り組みについての情報交換及び質疑
- 3 今後の取り組みにあたって留意すべきことについて確認

(協議会の中で報告された内容)

～研究内容や研究方法について確認されたこと～

- 1 研究内容について
 - ・学校全体としての確かな学力の向上を図る指導体制を確立すること
 - ・教科指導における確かな学力の向上を図ること。特に「個に応じた指導」の充実を図ること
 - ・基本的な生活習慣や望ましい家庭学習の習慣などの確立を図ること
- 2 研究方法について
 - ・目標や指標等を明確にした効果の検証を進めること。その際、学力調査資料(調査問題、質問紙)を効果的に活用すること
 - ・シラバス(学習概要案内)などで児童生徒や保護者と評価観点の共有化を図ること
 - ・確かな学力向上のための授業づくりのあり方を実践的に研究すること
 - ・教育委員会主催の諸会合で実践内容や効果の報告をすること

第2回 (趣 旨)

- ・各校の学力向上の取り組みについて情報交換し、今後の取り組みにあたり留意すべきことについて共通理解を図る。

(主な協議内容)

- 1 学力向上の取り組みについての成果と課題
- 2 成果の普及方法と来年度の公開研究発表会
- 3 今後の取り組みにあたって留意すべきことについて確認

(協議会の中で報告された内容)

～今後の取り組みにあたって確認されたこと～

- 1 学力向上策の中で「自校の特色」を打ち出すこと
- 2 授業の質の向上を図ること
- 3 学力のとらえと評価を今一度見直すこと
 - ・市販テストの結果だけで学力を測らないこと
 - ・意欲、思考力、表現力など新しい学力を見取る評価方法を開発すること
 - ・ノートやレポート、作文などで子どもの変容を読み取る際の視点や基準を明確にすること
- 4 学びの土台となる基本的な生活習慣や望ましい家庭学習の習慣を身に付けさせるための工夫をすること
 - ・子どもに身に付けさせる力を明確にするだけでなく、身に付けさせる側の指導の基準も明らかにし共通実践すること
 - ・家庭との連携を一層推進すること

「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

<p>事業評価の実施方法・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容の進捗状況を客観的に評価できるようにするため、研究内容に応じた評価指標を設定し、成果を具体的に説明する。 (評価指標例) 校内指導体制.....教員の意識調査、研究授業の回数 等 小学校教科担任制...児童の意識調査、保護者の意識調査、該当教科の学習状況 評価結果 等 習熟度別授業.....児童の意識調査、保護者の意識調査、該当教科の学習状況 評価結果 等 基本的な生活習慣や学習習慣の確立.....家庭での生活アンケート 等 <p>進捗状況(成果及び課題等)</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の指導者を招聘しての研究授業が増えた ・小学校の高学年における教科担任制については、対象児童や保護者へのアンケート調査において好意的に受け止められている ・中でも、好意的な理由として「授業がよく分かる」と答えた児童が多いことは大きな成果である ・習熟度別の少人数授業においても、対象児童へのアンケート調査では好意的に受け止められている ・学びの土台となる生活習慣や学習習慣の実態を把握し、家庭への啓発を行う学校が増えてきた <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教科担任制、習熟度別少人数授業の成果を学習状況評価結果などで、より客観的に検証すること ・児童生徒の実態に応じた習熟度別授業の実施 ・習熟度別少人数授業での思考力を育成する授業づくりの工夫
--

地区協議会における特色ある取組

<p>地区内の学校に対する支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の学力向上策を策定し、計画的に実践、評価している取り組みについて、全校の教務主任が出席する教務主任連絡協議会で紹介 ・フロンティアティーチャーを中心とした習熟度に応じた指導法の工夫について、金沢市きめ細かな指導推進協議会で研究授業の実施、実践事例の紹介 <p>研究成果の普及の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フロンティアスクールの公開研究発表会に多くの教員が参加できるように、年2回(6月、11月)全市の「研究公開の日」を年度当初に設定 ・学力向上フロンティアスクールや金沢市学力向上モデル校の取り組みの概要を金沢市教育プラザ富樫のホームページに掲載し、「edねっと」で市内全校に配信(予定)
--

都道府県番号	17
地区協議会名	金沢地区学力向上推進協議会

地区協議会の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
金沢地区協議会	46校 (3校)	20校 (3校)	66校 (6校)

地区協議会としての支援策

- (1) 域内の各小・中学校に対して(含:学力向上フロンティアスクール)
- ・少人数及びTT加配されている学校の代表者で組織されている「きめ細かな指導推進協議会」と連携をとり、その中で、フロンティアスクールの取り組みを報告し、各校の参考にしてもらう。
- (2) 実践研究の成果の普及の方策の構築
- ・フロンティアスクール6校のみではなく、県指定「個に応じた学習力向上のための研究実践校」の2校も交えた上での報告、協議、情報交換を行い、各校の研究の充実と他校への普及を図ろうと考えた。
 - ・地域の連携、小中の連携をより強固なものにするために、公開授業の参観を協議会の中の日程に組み入れ、他校の実践内容を理解し、自校に活かす。
 - ・地区協議会参加の8校の実践内容をまとめ、次年度地区別協議会及びきめ細かな指導推進協議会を実施する際の資料とする。

学力把握のための地区協議会としての取組について

- (1) 各校の学力把握のためのデータ資料の報告を受けて、今後の指導方法の工夫改善・教育課程の見直しを図る。

地区協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

第1回	平成15年 5月12日(月)	金沢教育事務所 指導主事5名、教員8名	13名
第2回	平成15年11月20日(木)	高松町立高松中学校 指導主事5名、教員8名、保護者6名	19名
第3回	平成15年12月 5日(金)	松任市立東明小学校 指導主事5名、教員8名、保護者6名	19名

(2) 地区協議会の主な内容等

第 1 回

(趣 旨)

理解や習熟の程度に応じた指導の実施や評価のあり方など、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るための実践研究を推進し、その成果を金沢地区の学校に普及することにより、新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上に資する。

(主な協議内容)

協議会の実施要項について

各学校研究の概要説明

情報，意見交換

- ・ 中学校へ進級したとき，特に必要と思われる算数の学力について

- ・ 思考力・判断力の評価の方法について

(協議会の中で報告された内容)

確認事項

- ・ 習熟度別少人数学習の推進

- ・ 金沢地区の学校への普及

- ・ 本協議会と「きめ細かな指導推進協議会」との連携を図りながら，よりよい研究の方向を定めていくこと

- ・ 各研究校の重点は何か明確にしていくこと

課題

- ・ 学力がどの程度定着したかの検証の方法とその取り組みの普及方法について

- ・ 見えにくい学力（関心・意欲，思考・判断など）を計る方法の確立とその伸ばし方について

第 2 回

(主な協議内容)

各中学校の研究校の状況報告及び情報交換

公開授業参観と分科会参加

(協議会の中で報告された内容)

成果

- ・ 選択教科におけるゲストティーチャーを招いた授業実践，必修教科内容の再学習，年間評価計画の立案により，生徒の学習意欲の高まりと主体的な学習活動を生み出した。

- ・ 選択教科で，生徒の興味を引くような内容の取り入れと基礎・基本の再学習による取り組みが，その定着に役立った。

課題

- ・ 小学校での習熟度別学習の取り組みが，中学校ではどのように生かされていくのか，その分析の方法

- ・ 選択教科のよりよいガイダンスのあり方

- ・ 支援の必要な児童生徒への意欲の持たせ方

- ・ 中学校における課題解決学習の進め方

第 3 回

(主な協議内容)

各小学校の研究校の状況報告及び情報交換

公開授業参観と授業整理会参加

(協議会の中で報告された内容)

成果

- ・ 少人数学習の指導において，自分にあったコースの選択，それぞれのコースに応じた教材・教具の工夫により，主体的な学習がみられた。

- ・ 評価規準を 1 時間に 1 つにすることで指導の焦点化ができ，支援する場，支援の方法が明らかになった。

- ・ 座席表の活用により，個の見取り，それぞれに合わせた支援と個に応じたきめ細かな指導につなげることができた。

課題

- ・「聞く」力の向上から、学んだ力の向上につなげていきたいが、まだ「聞き合う」姿にはいたっていない。学力テストの分析と合わせて、今後も検討していかなければならない。
- ・評価したことが、次の支援に生かせるような継続的・効果的な記録のあり方
- ・作成した評価規準の見直し

確認事項

- ・テスト、アンケート、意識調査等による伸ばしたい学力の向上の分析とその報告

「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容

- 積極的な授業公開
- 公開授業の整理会の実施方法
- 学力把握のためのデータの活用

進捗状況（成果及び課題）

14年度から指定されている3校すべてと15年度から指定されている3校のうち2校が授業公開を行った。どの学校にも、金沢地区の学校はもちろん、県内の他の地区からの参観もみられた。

授業を公開した5校のうち、1校は全体会と分科会による授業整理会、2校は分科会による授業整理会、残りの2校には授業整理会はなかったが、研究の概要説明が行われた。ただ、分科会の時間が足りなく、十分な意見交換が得られなかった。

学力把握のための、客観的なデータの積み上げが十分ではない。今後定期的にテスト、アンケートなどによる調査を行っていくことが必要である。

地区協議会における特色ある取組

地区内の学校に対する支援策

「金沢地区協議会」と「きめ細かな指導推進協議会」を連携させ、少人数授業における指導法の工夫・改善について、授業参観と分科会を通して協議している。

研究成果の普及の方策

1年間の取り組み状況を「きめ細かな指導推進協議会」参加者に報告する。

都道府県番号	17
地区協議会名	中能登地区協議会

地区協議会の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
中能登地区協議会	51校 (6校)	19校 (2校)	70校 (8校)

地区協議会としての支援策

<p>(1) 域内の各小・中学校に対して(含:学力向上フロンティアスクール) 協議会の委員として各地区から代表1名が出席するようなシステムにし、学力向上フロンティアスクールの意義の理解やフロンティアティーチャーの活用協議会での指導法の工夫の情報等を広く行きわたるようにしている。また、フロンティアスクールの指定校については、取り組み等について協議会として助言を行っている。</p> <p>(2) 実践研究の成果の普及の方策の構築 成果の普及として、授業公開及び研究物等の配布により、フロンティアスクールの取り組み状況として知らせるとともに、地域の各校の授業の充実に役立てるようにしている。</p>
--

学力把握のための地区協議会としての取組について

<p>○ 協議会としての特別な学力把握の取り組みは行っていないが、県の基礎学力調査及び各市町、各学校で行った学力調査結果の分析を持ち寄り、生かし方について協議をしている。</p>

地区協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

○第1回	平成15年 5月28日	中能登教育事務所
	指導主事 教員	20名
○第2回	平成15年11月20日	押水中学校
	指導主事 教員 保護者・・・	22名
○第3回	平成16年 2月4日	志雄小学校
	指導主事 教員 保護者・・・	22名

(2) 地区協議会の主な内容等

<p>○第1回(趣旨) 充実したフロンティアスクールの取り組みになるように、昨年度の協議会の取り組みを基に今年度の具体的な方策を協議する。 (主な協議内容)</p>
--

・昨年度より取り組んでいるフロンティアスクールの実践報告を基に、更なる充実した取り組みとなるための視点について話し合う。

・各校の本年度の実践の方向性について情報交換をする。

(協議会の中で報告された内容)

・保護者に理解してもらうためには、子どもたちの声や確かな力の伸びを把握して知らせることが必要である。

・コース分けをする時、習熟を図って授業展開を工夫することが確かな学力に繋がる。

○第2回(趣旨)

個に応じた指導をより充実させるための取り組みについて、保護者の意見を交えながら情報交換をする。

(主な協議内容)

・数学、理科(少人数授業)英語(TT授業)の公開授業を参観しての感想交流をする。

・各校の取り組み状況報告と課題等についての研究協議をする。

(協議会の中での報告された内容)

・子どもたちの表情が明るく学習に対する意欲も感じられた。

・それぞれのコースでの授業に工夫があった。

・子どもたちの少人数授業に対する感想は好意的なものが多い。

・感想だけでなく確かな学力の定着を確認できる取り組みが必要である。

・コースに分けた中でも個に応じた手だてが大事である。

・どの教科においても確かな学力の定着を図る取り組みが求められる。

「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

○事業評価の実施方法・内容

協議会としての取り組みについて、委員による評価を行う。

各学校の公開授業の折りに出されたアンケート結果を持ち寄り協議する。

○進捗状況(成果及び課題等)

習熟度による少人数授業の指導法の工夫が充実してきた。

個に応じた指導の更なるきめ細かな取り組みが必要である。

授業における評価の実践と評価を生かした授業の充実を図る。

確かな学力の定着を把握する取り組みが必要である。

地区協議会における特色ある取組

○地区内の学校に対する支援策

きめ細かな指導法の協議会と連携を図りながら指導法の工夫の充実を図る。

○研究成果の普及の方策

授業公開を中心に、取組の概要説明と協議の時間を持ち、成果を積極的に普及していく。